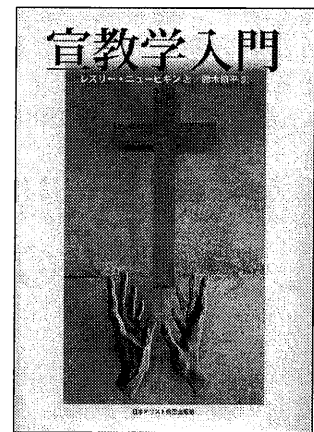


宣教、それは文化と教会と福音のぶつかり合い

レスリー・ニュービギン著

鈴木脩平訳

宣教学入門



藤井 創

九〇年代初頭、西洋神学を学び直そうと留学した米国ウエスタン神学校で、「あなたはアジアでどのような宣教を行おうとしているのですか」と熱心に問う教授がいた。驚いたことに、彼の「学ぶ姿勢」は「西洋社会は福音に対して敵対的であり、宣教されるべきミッシオンフィールドである」という前提に立っていた。彼こそ、ジョージ・ハンスバーク宣教学教授で、

当時、*Gospel and Our Culture Network*を主導し、北米の教会に新しい風を吹き込んでいた。彼の研究活動の基軸になっていたのが『ギリシャ人には愚かなれど』を中心としたニュービギンの一連の著作だった。ニュービギンから始まり、ハワーワスの『旅する神の民』、ボツシユの『宣教のパラダイム転換』と読み進める中、これまで自分の上のしかかっていた宣教の重荷という深い霧が吹き払われ、一気に視界が開けてきた。

七八年に出版された本書は、これら一連の宣教学論の捉え直しの萌芽と位置づけられる。キリスト教世界の終焉とキリスト教の私的領域への後退が認識され始めたポストモダンの時代、ニ

ュービギンはそれに否を唱えた。「神の支配」は時代を超えて、すべての国・地域に及ぶのだ、宣教とはイエスの共同体の一員となるようにすべての人に呼びかけることなのだ。しかし、それは決して従来の西洋型宣教学論の焼き直しではなかった。

本書を貫いて語られるのが「学習する共同体としての教会」である。教会は、改宗者から矯正を受け、その新鮮な洞察力に驚かされ、沈黙させられ、回心し、変革されねばならない。他者のもとに遣わされるキリスト者（宣教のために選ばれた者）は、選ばれない人々を通して、他の文化の助けによって、救いの賜物を受けるのだと。それはインドの宣教師時代の異文化体験の中で彼が実感した宣教の醍醐味であった。

ニュービギンは、西洋教会が宣教の拠点となつて、非キリスト教世界に西洋教会の複製品を造るといふ伝統的な宣教学論が誤りであり、かえって、それが、それぞれの国・地域における教会の独自の成長と働きを阻害してきたという。パウロが十年で達成したことと現代の教会が百年かけても達成できなかったこ

との比較が興味深い。パウロは、一つの教会が生まれると、全責任をその地の指導者に託し、別の所に向かった。同様に、インドでは、宣教師が西洋型の聖職者のあり方や訓練を押しつけず、村落共同体の生活の中で聖霊に触発された現地の人々が、その土地の文化に調和した指導者のスタイルを展開する中で、生き生きとした教会を生み出していった。宣教は、西洋神学の試験を行うことではなく、その地に自発的に成長する教会が生まれ、発展していくような諸条件を整えていくことなのである。

ニュービギンの論点は、文化と教会と福音の生きた三角関係に集約される。伝統文化（文化）の中に生きる人々は、宣教師の侵略的文化（教会）が入ってきてこれを受容する時、伝統文化に否定的になる。しかし、二、三世代を経過する中、自分たちの伝統文化を神が愛し人間に与えた賜物として重んじ始める。その時、教会は初めて「文化と教会の関係」について考へ始める。そして、福音（聖書）が、伝統文化と侵略的文化の

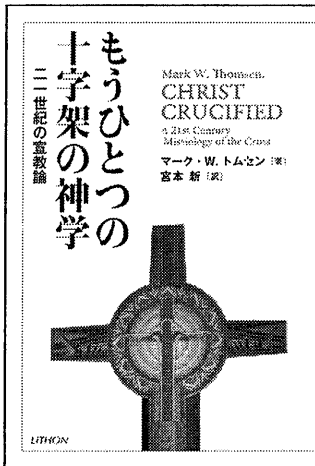
両方に対峙し、それらを相対化することによって、三者の「複雑で予測不可能な進化のための舞台」が生まれる。このダイナミズムの中で教会はより真実なものへと成長するのである。

ニュービギンに始まる一連の宣教論の捉え直しは、西洋教会の自己検証として始まった。西洋教会の影響下にある日本の教会はこれをどう受けとめるのだろうか。ニュービギンは「宣教論は、改宗者によつてではなく、宣教師によつて書かれてきた」という。日本という異教の地で「改宗者」となったわたしたちが、西洋の書物の翻訳ではなく、自分たちの手で宣教論を書き始めることこそがニュービギンの本意であろう。ボッシュの『宣教のパラダイム転換』の出版を機に、日本宣教会が発足し、日本でも宣教論の捉え直しが始まっている。本書は、そのダイナミックな神学的作業への参与へと読者を招いている。

（ふじい・はじめ Ⅱ 酪農学園大学教授、日本宣教会理事）
（A5判・三一四頁・定価五四六〇円（税込）・日本キリスト教団出版局）



新刊



もうひとつの 十字架の神学

二二世紀の宣教論

マーク・W・トムセン 著

宮本新訳

●四六判並製二二二頁・定価二一〇〇円

北米ルーテル教会の第一線で宣教を担ってきた著者が、二二世紀における十字架の宣教論を展開する。現代世界を特徴づけるグローバルイゼイション、他宗教間紛争と対話、そして国内にある構造悪等の脈絡を踏まえ、古くて新しい十字架理解を示す。

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638